

阿蘇の文化的景観 阿蘇山南西部の草原及び森林景観

No.43-09

所在地：熊本県南阿蘇村 選定年月日：平成29年10月13日 面積：1,995.8ha 選定基準：二(一)(二)(三))

(1) 概要

南阿蘇村は、南郷谷の西4分の3を占め、カルデラ床を中心に広がります。外輪壁斜面は内側に向かって急峻な地形をなし山頂付近はナラ、カシ、ケヤキ、ヤマザクラ等の天然林となっています。

南郷谷では、白川水源や塩井社(しおいしゃ)水源等の数多くの湧水がみられる一方、火山灰等の堆積層が厚く乏水性の土壤が広がっています。よって、白川を中心として、兩岸の河岸段丘を棚田及び段々畑、その南北を居住地として、白川の北側集落は中央火口丘、南側集落はカルデラ壁を草地として利用しています。

江戸時代には、熊本藩から南郷中用水方定役(なんごうちゅうようすいほうじょうやく)に任ぜられた片山嘉左衛門は、湧水や白川の豊富な水を利用するために、南郷谷の久木野地区に大小の井手(いで)(水路)を開削し、その半生を水利事業にささげました。その後も、片山家が四代にわたり南郷の水利事業にかかわって計6本の疏水群が開削されており、近代以降も、ほ場整備や用水路整備により畑作から水田への転換が進められた地域です。

南阿蘇村西側(旧長陽村付近)では、かつて熊本市街地から阿蘇山上への入口として「阿蘇参り」の参拝者が湯治をかねて一週間ほど、自炊・宿泊を行っていた時期があり、当地には地獄温泉、垂玉(たるたま)温泉と呼ばれる著名な温泉地が広がります。

阿蘇山南西部の草原及び森林景観は、阿蘇の文化的景観を構成する要素として重要です。

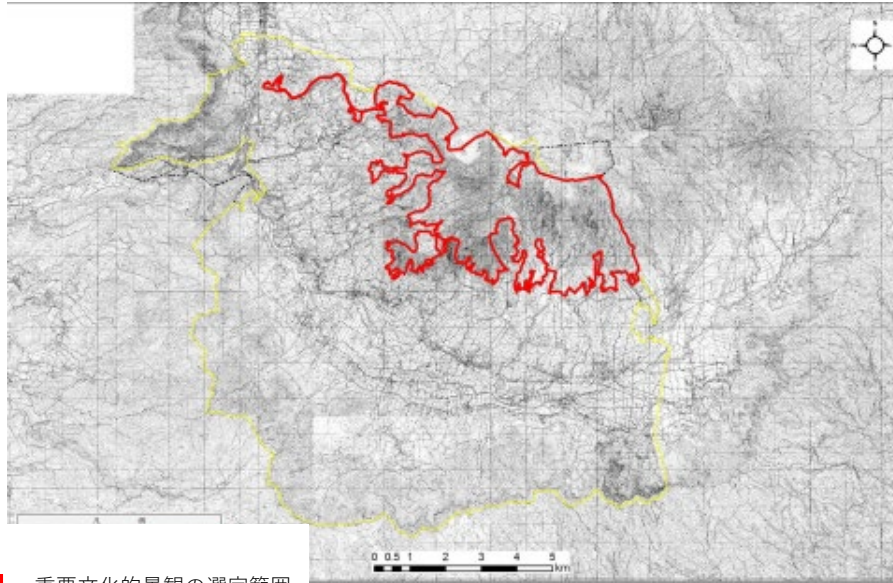


草原



草原とあか牛

（２）選定範囲



重要文化的景観の選定範囲

- 重要な構成要素：13件
- 国指定等文化財：米塚及び草千里ヶ浜（名勝及び天然記念物）

（３）選定による効果

草原保全について阿蘇郡市全体で取り組むことにより、重要な構成要素やその周辺における開発について事前に把握することができるようになりました。また、景観との調和をとった開発等を行うことにより景観の保全を行っています。

選定を行ったことにより、今後想定される災害など、草原の生業に影響のある事象に対し、文化財保護の観点から支援をすることができるようになりました。



放牧風景

（４）保存活用計画などの基礎情報

- 阿蘇の文化的景観保存計画【南阿蘇版】（平成29年1月、南阿蘇村）
- ホームページ <http://www.asosekaibunkaisan.com/document/>

(5) 活用事例

阿蘇の文化的景観	阿蘇北外輪山及び中央火口丘群の草原景観	(熊本県阿蘇市)	No.43-04
阿蘇の文化的景観	南小国町西部の草原及び森林景観	(熊本県南小国町)	No.43-05
阿蘇の文化的景観	湧蓋山麓の草原景観	(熊本県小国町)	No.43-06
阿蘇の文化的景観	産山村の農村景観	(熊本県産山村)	No.43-07
阿蘇の文化的景観	根子岳南麓の草原景観	(熊本県高森町)	No.43-08
阿蘇の文化的景観	阿蘇山南西部の草原及び森林景観	(熊本県南阿蘇村)	No.43-09
阿蘇の文化的景観	阿蘇外輪山西部の草原景観	(熊本県西原村)	No.43-10

事例43-04~10 ①

広大な草原の維持のため行動する人づくり「阿蘇グリーンストック」

●住民や団体等による取り組み

阿蘇の草原は、太古から野焼き・採草・放牧と人々の営みによって維持されてきました。しかし近年、高齢化や担い手不足により、草原の維持が困難となってきました。

公益財団法人阿蘇グリーンストックでは、阿蘇の豊かな緑を後世へ引き継ぐことを基本理念として様々な取り組みを行っています。美しい阿蘇の草原を後世に残すための「野焼き支援ボランティア」は、講義と実技を交えた初心者研修会を行った上で、野焼き前の防火帯作りである輪地(わち)切り・輪地焼きや野焼きなどへ派遣し、地元の方々と連携し草原保全に取り組んでいます。

また多くの方々へ阿蘇の草原の美しさや価値を伝え、一緒に守りたいという思いを増すためにパネル展やシンポジウムなど普及・啓発活動にも力を入れています。

ほかにも阿蘇の草原を身近に感じてもらうと県内外の学生に向けた環境学習やファームステイなど体験プログラムも実施しています。

今後多くの方に阿蘇の草原について伝え、一緒に考え行動できる取り組みを推進していきます。



あか牛を食べながら阿蘇の草原を考える



輪地切りの様子



野焼きの様子



講演の様子

団体等情報：公益財団法人阿蘇グリーンストック <https://www.asogreenstock.com/>

① 地域内での
魅力の共有

② 目標性化の
共有

③ 広域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり・
人づくり

(5) 活用事例

事例43-09 ②

草原に住むオオルリシジミを通した、環境学習

●住民や団体等による取り組み

阿蘇草原再生協議会内にある白水小学校の児童を対象に、毎年5月ごろに重要文化的景観の重要な構成要素の一つである下礫牧野をフィールドとして絶滅危惧種とされているオオルリシジミの学習を行っています。

事前にオオルリシジミについて勉強し、そして、実際に現地に赴き牧野を歩くことで、どのような環境でオオルリシジミが育つかを学びます。

実際にオオルリシジミを見つけることで他の地域ではできない体験学習となっています。



現地学習の様子



オオルリシジミ

団体等情報：阿蘇草原再生協議会 <https://www.aso-sougen.com/>

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
目標の共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり・
人育